

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	障害者等生活サポート事業	会計	一般会計	事業No.	108	施策順No.	34-012
		事業種別	政策・その他	予算科目	3-1-3-16-3		
政策	3 健やかに安心して暮らせるまちづくり	課等名			福祉課		
施策	34 障害者福祉の推進	事業期間	開始	18	終了		

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	1 65歳未満の在宅の手帳保持者 2 事業を支えるサポーター養成可能人数						A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない
	誰、何に	具体的な数値で表すと(対象指標)	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
		65歳未満の在宅の手帳保持者数(人)		1884	1890	1900	1910	
		事業を支えるサポーター養成可能人数(人)		171771	171500	171300	171100	
意図		1 在宅で困難のある日常生活を支援して、快適な生活が送れるようにする 2 事業を実施するためのサポーター養成をすすめる						
対象をどう変えるか	事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績	23年度目標	目標達成度
	サポーター利用人数(人)	8	10	11	12	9	12	C
	事業を支えるサポーターの養成人数(人)	5	10	10	10	7	10	
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】	受講者の減少傾向に伴い、サポーター養成人数は21年度と比較し3人減少した。							

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	飯伊圏域障害者総合支援センターへの委託事業として実施 1 何らかの理由(介護者の休息、買い物、旅行など)で、介護者の介護が受けられない場合に、介護者に替わって、障害者が介護を受けられるようにする。 2 日常生活で家事等の支援をサポートする。 3 就労等の体験事業や就労に必要なサポートをする。 4 買い物、通院等の自立体験をする。		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	1 サポーター派遣事業 2 障害者サポーター養成講座 3 サポーターの養成人数	1 利用実人数 2 養成講座開催数 3 人数	1 9人 2 1回 3 7人
23年度実施計画	1 サポーター派遣事業 2 障害者サポーター養成講座 3 サポーターの養成人数	1 利用実人数 2 養成講座開催数 3 人数	1 12人 2 1回 3 10人

3 事業コスト

事業費	特定財源	(千円)	22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額	特定財源内訳、補足事項
	国庫支出金					
	県支出金					
	起債					
	その他					
一般財源		1,021	553	1,021		
計(A)		1,021	553	1,021		
正規職員所要時間			50			
臨時職員等所要時間						
人件費計(B)			179			
トータルコスト A+B			732			

4 事業に対する市民や議会の意見

--

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	支援を必要とする障害者及びその世帯が安心して地域で日常生活が送られる。	施策の成果指標又はムツス指標	安心して地域で日常生活が送れる割合(%)
この事務事業は施策の目的達成にどのように貢献しましたか	4年間の振り返り	障害者自立支援法で対応できない、日常生活での家事等の支援をサポートした。		
	後期に向けた課題	具体的な支援内容を明確にし、制度の周知を図る必要がある。		
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫をしてみましたか	4年間の振り返り	支援の要望に対応するため、遠山地区においても養成講座を開催した。		
	後期に向けた課題	障害者の理解を深めるためにも、多くのサポーターを要請する必要がある。		
コストを削減するためにどのような工夫をしてみましたか	4年間の振り返り	特になし。		
	後期に向けた課題	特になし。		
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	市の単独事業として、自己負担なしで実施している。		
	後期に向けた課題	特になし。		
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を發揮するために、行政はどのような働きかけをしてみましたか、又は、配慮してききましたか	4年間の振り返り	①実際に支援を行うサポーターが、制度の谷間になっている部分の支援を行った。 ②障害者の理解を深めるためにも、多くのサポーターを要請する機会を持った。		
	後期に向けた課題	特になし。		
全体を通じて	4年間の振り返り	実際に支援を行うサポーターが、制度の谷間になっている部分の支援を行った。また、障害者の理解を深めるために、多くのサポーターを要請する機会を持った		
	後期に向けた課題	具体的な支援内容を明確にし、制度の周知を図る必要がある。		

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ない	対象や意図を修正する必要はありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要はありますか	ない
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	--	--------------------------------	-----------------------------------